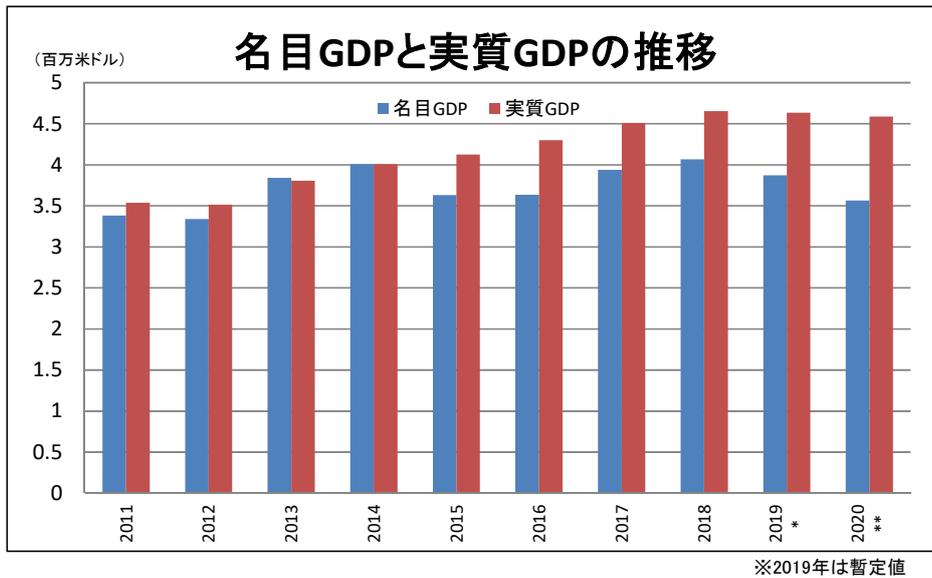


パラグアイ主要経済指標(2020年10月)

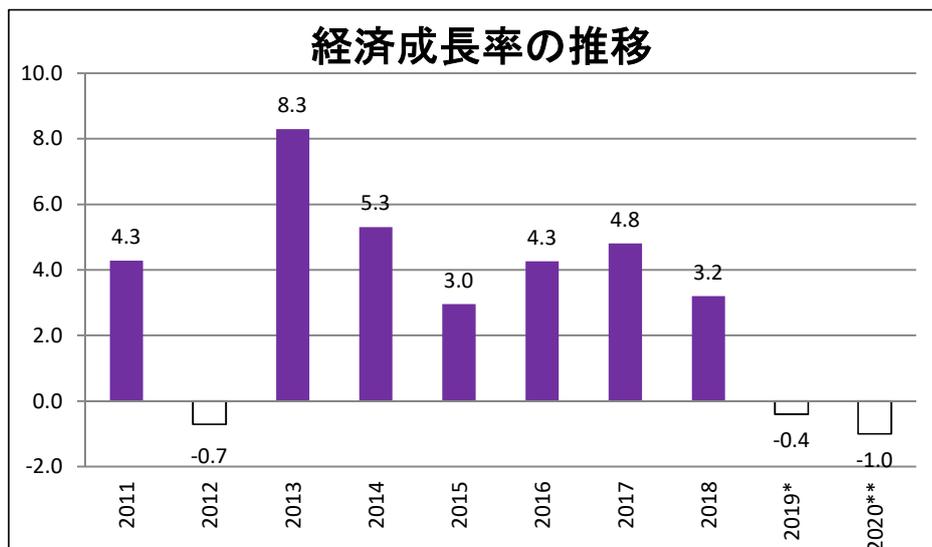
※ I ~ V および VII は全てパラグアイ中央銀行発表データ

I 名目GDP・実質GDP・経済成長率

●10月時点で2020年度の名目GDPは35,679百万米ドル、
実質GDPは45,896百万米ドルと推定されている



●2020年10月時点での経済成長率(推定値)は-1.0%である。



II 貿易

<2020年10月貿易データ概要>

(1)輸出

10月の輸出総額は788,845千米ドルであり、1～10月の総額は7,103,379千米ドルとなった。

* 前年度比3.7%増

(大豆種子30.4%増、大豆油5.0%増、大豆粉2.4%減、穀物10.7%減、肉類6.6%増、電力9.0%減、自動車部品(ハーネス)41.5%減、その他2.8%増)

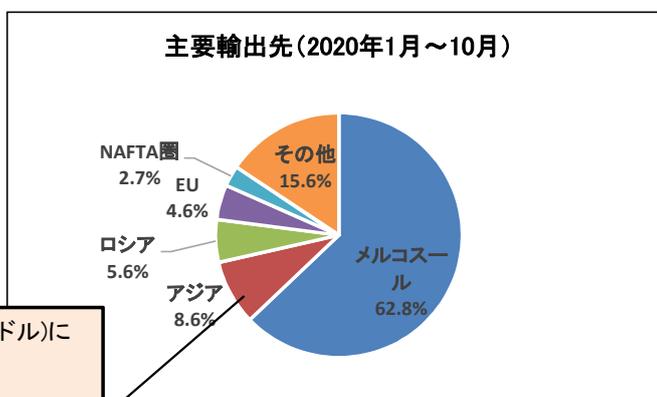
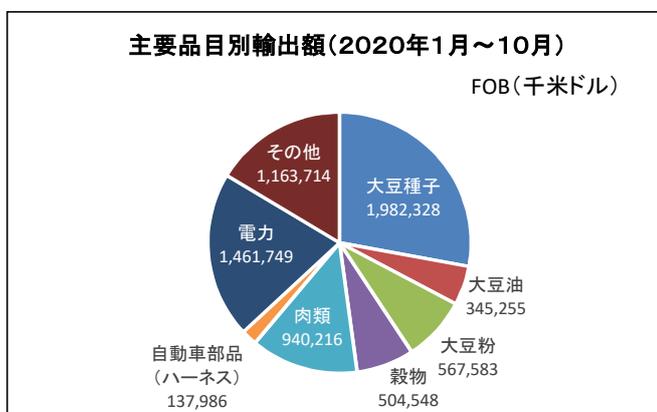
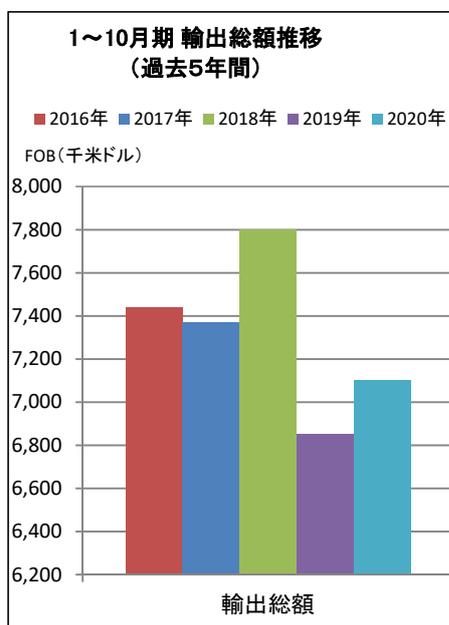
(2)輸入

10月の輸入総額は793,933千米ドルであり、1～10月の総額は7,690,198千米ドルとなった。

* 前年度比20.2%減

(食料品1.4%減、酒類・タバコ20.3%減、紙・布類・薬・衛生用品等20.0%減、燃料26.3%減、自動車・電子機器等26.7%減化学製品・薬品14.6%減、機械類・部品23.8%減、その他11.2%減)

(1)輸出



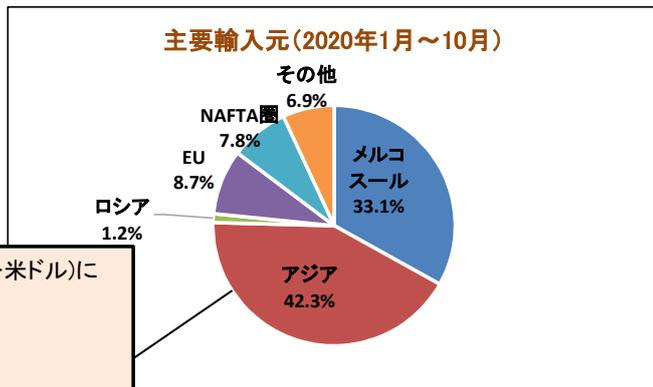
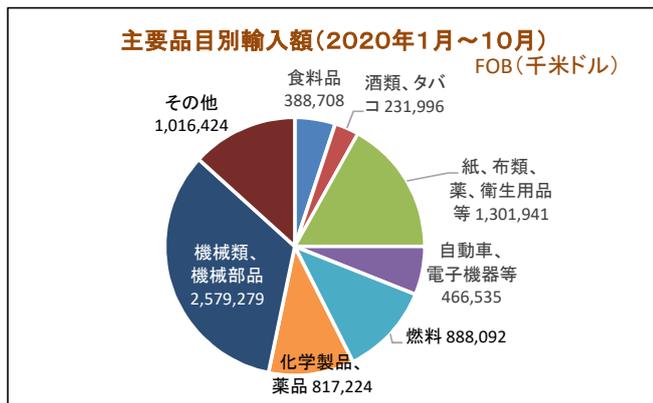
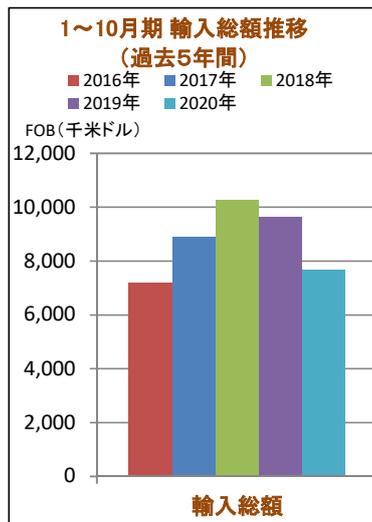
【アジア向け輸出(総額610,728千米ドル)に占める割合】

台湾: 97,750(千米ドル)【16.0%】

日本: 53,971(千米ドル)【8.8%】

中国: 10,025(千米ドル)【1.6%】

(2) 輸入



【アジアからの輸入(総額3,250,727千米ドル)に占める割合】
 台湾: 21,004(千米ドル)【0.6%】
 日本: 168,448(千米ドル)【5.2%】
 中国: 2,293,913(千米ドル)【70.6%】

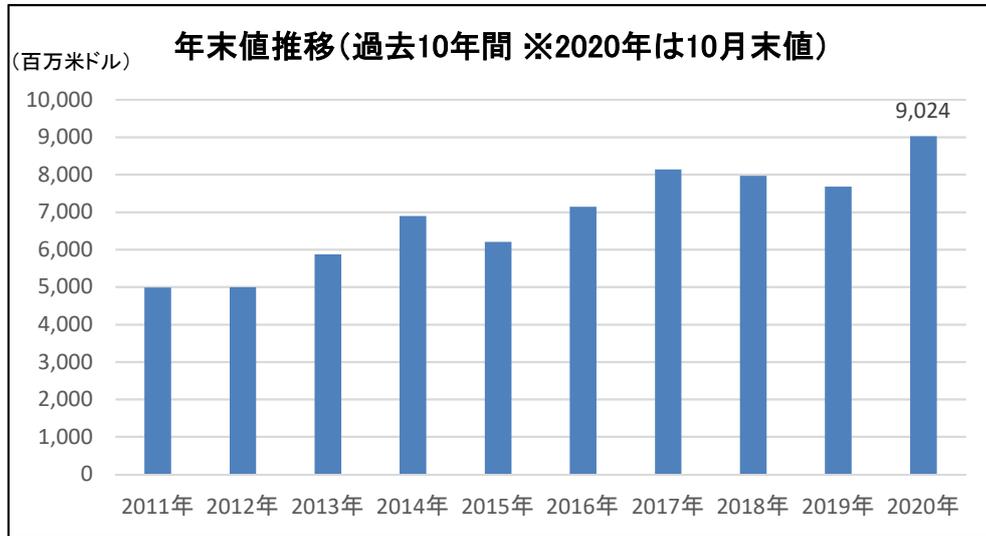
(3) 貿易収支(過去5年間、再輸出等を含めた総額ベース)



※2020年は1～10月データ

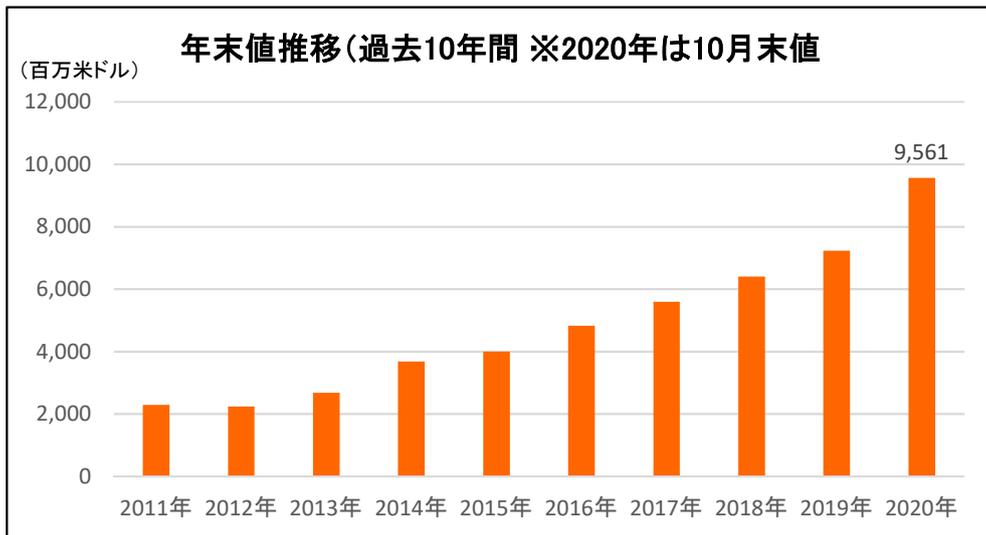
Ⅲ 外貨準備高

2020年10月末の外貨準備高は、約9,024百万米ドルであった。



Ⅳ 対外累積債務

2020年10月末の対外累積債務は、約9,561百万米ドルであった。



V 消費者物価指数

<消費者物価指数概要>

(1) コア・インフレ

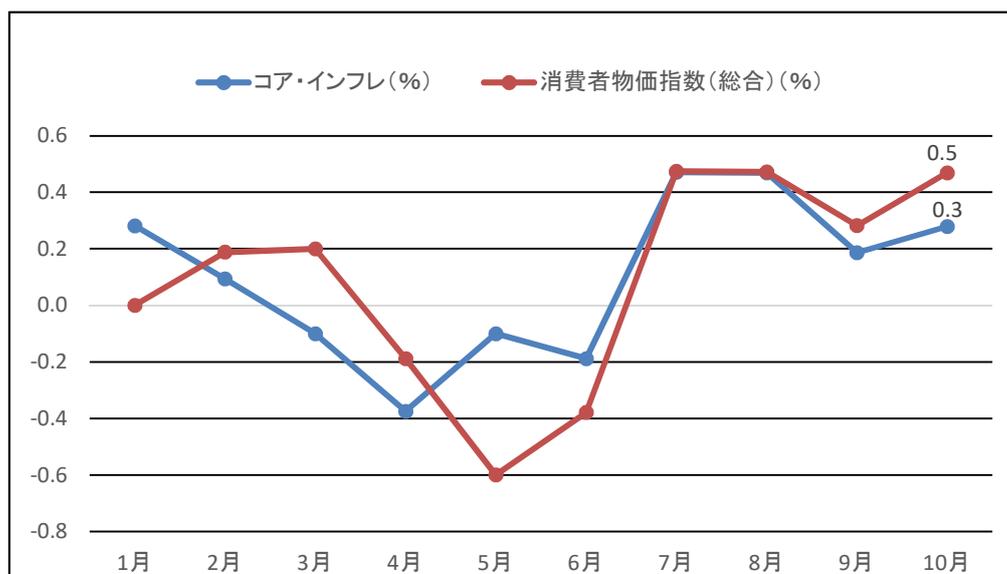
10月のコア・インフレ率は0.3%となり、年間累計値は1.0%となった。

*小数点第二位切上げ

(2) 消費者物価指数上昇率(総合)

10月の消費者物価指数上昇率(総合)は0.5%であり、年間累計値は0.9%となった。

<2020年1月～10月推移>



【参考】2011～2020年 10月時点累積値比較



VI 雇用統計(パラグアイ統計局発表)

2020年第3四半期の失業率(全国)は8.2%であり、前期より0.6ポイント上昇した。男性5.8%、女性11.5%であり、新型コロナウイルス感染症対策の接客業などの休止により、女性の失業が深刻化している。

<2020年(四半期)失業率(%)推移>

期間	全国	男/女(全国)	都市/農村
第1四半期	7.9	6.3/10.1	8.8/6.4
第2 "	7.6	6.7/8.8	9.1/4.9
第3 "	8.2	5.8/11.5	10.1/4.7

※BoquerónとAlto Paraguay除く

<最低賃金>

2020年10月現在:2,192,839グアラニー

参考:最低賃金の改定歴(2010年~, グアラニー)

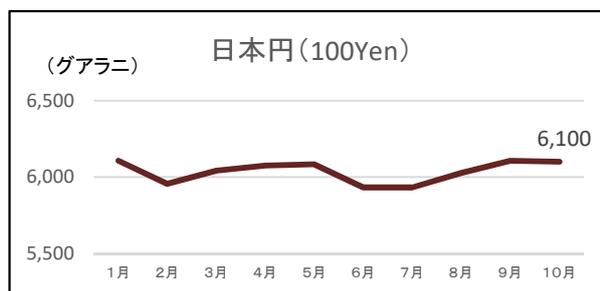
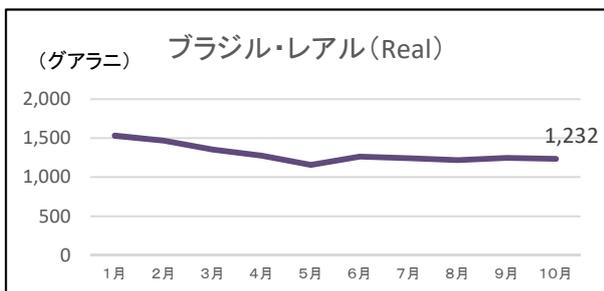
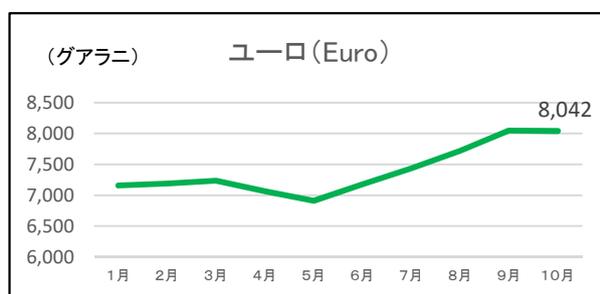
改定日	最低賃金	一日あたりの賃金	前回からの増加率
2010年7月	1,507,484	57,980	7%
2011年4月	1,658,232	63,778	10%
2014年3月	1,824,055	70,156	10%
2016年12月	1,964,507	75,558	7.7%
2017年7月	2,041,123	78,505	3.9%
2018年7月	2,112,562	81,252	3.5%
2019年7月	2,192,839	84,340	3.8%

VII 為替相場

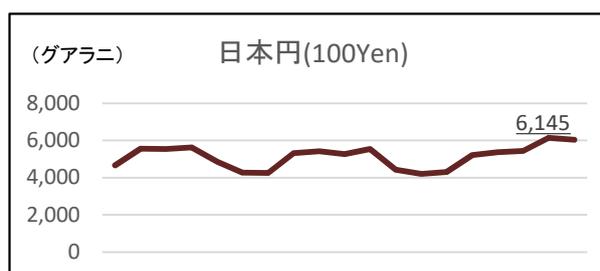
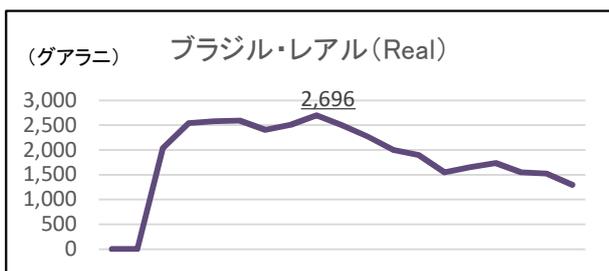
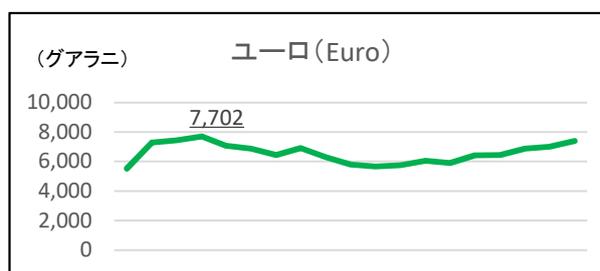
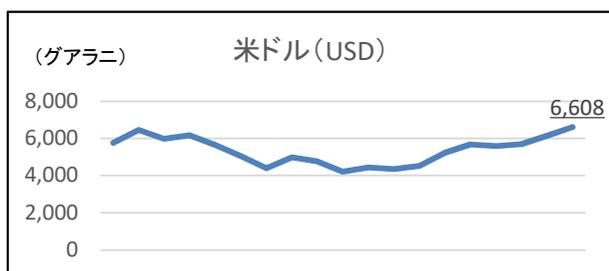
<為替レート概要(月平均値、売値)>

- (1) 対ドル(Gs/US\$)
10月の対ドル為替レート(Gs/US\$)は6,943 Gsとなった。
- (2) 対ユーロ(Gs/EURO)
10月の対ユーロ為替レート(Gs/EURO)は8,042 Gsとなった。
- (3) 対リアル(Gs/REAL)
10月の対リアル為替レート(Gs/REAL)は1,232 Gsとなった。
- (4) 対日本円(Gs/円)
10月の対日本円為替レート(Gs/円)は6,100 Gsとなった。

<2020年1月～10月推移>



【参考】各主要通貨対グアラニ為替相場: 年平均値推移(2002～2020) (下線部は最安値)



VIII 10月の経済トピックス

1 干ばつによる大豆の播種の部分的停止

大豆の播種に用いられる土地の大部分では、土地が再び乾燥していることで種まき機の作動が停止した。大豆生産者組合のマイケルズ会長は、干ばつの状況は北部において最も危機的であるとし、数か所の土地では播種が続けられているが、すでに多くの生産者が止めてしまっており、雨が再び降ることを願っていると話した。同組合長によると、カニンデジュ県のヌエバ・エスペランサでは50%の播種が止まり、40ミリ以上の降水量があった土地では続けられている。一方、ここ最近の雨による恩恵を最も受けたアルト・パラナ県とイタプア県では、多くの農業機械が作動し続けている。両県は、大豆栽培地の約半分を占めている。

2 林業に関する国家森林局（INFONA）等の会合

ゴラレウスキINFONA長官は、ビデオ会議形式で行われた会合において、国際市場による輸出品の産地に関する要求はより厳しくなっており、パラグアイは持続可能な製品を輸出しなければならないとして、輸出における林業の可能性について話した。持続可能な開発について、同長官は、森林伐採では、直接的には1ヘクタール当たり1日につき0.35人、間接的には3.5人の労働力が生じ、10～12年間で投資の効果が認識できると話した。

3 ボリビア人不法労働者に関する調査

労働、雇用、社会保障省（MTESS）への匿名の告発に関して、同省の監督官は不法滞在の疑いのあるボリビア人がニェンプ市の携帯電話の配線会社で働いていたことを明らかにした。オルエ労働担当副大臣は、同告発は労働者が勤務中の階段落下事故の被害を受けているとするもので、告発を受けて監督官が同社に出向き、ボリビア人労働者がどのように入国したのか、つまりパラグアイでの就労要件を満たしているのか、また、彼らと契約した会社が雇用条件を満たしているのか調査したと述べた。さらに、同副大臣によると、調査にあたった監督官は屋外で5人のボリビア人が働いていることを確認したが、彼らは監督官に対し、今月初めに50人のグループでチャコ地方から入国し、ハンサ社と雇用契約を結んだと説明した。このような状況から、バシガルボMTESS大臣は同社への捜査を命じたが、会社自体の存在がないことが判明した。